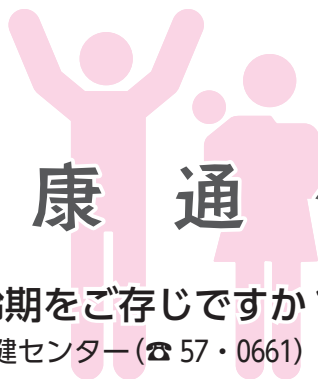




健康通信



妊娠の適齢期をご存じですか？

西尾市保健センター (☎ 57・0661)

今回は、少子化の一因となっている晩婚化や晩産化を踏まえ、妊娠の適齢期についてお伝えします。

●晩婚化・晩産化の現状

平成25年の県の平均初婚年齢は、夫30・7歳、妻28・8歳でした。その35年前の昭和53年は、夫27・6歳、妻24・7歳でしたので、男女とも年齢が高くなつて晩婚化の傾向にあります。

また、出生児の母の年齢も晩婚化の影響により、昭和63年では、20歳代が約70%を占めていましたが、平成25年では、30歳以上が約60%を占めています。特に、35歳以上が20%を超えていることから、急速に晩産化が進んでいます。

●卵子と精子の老化

【卵子】母親の胎内にいる時に一生分の卵子が出来上がっています。胎児の時から多く、誕生するときには約200万個蓄えています。年齢とともに減少し、思春期・20歳の頃には20万〜30万個に、40歳前後には1万個になるといわれています。

【精子】思春期以降、男性の体内で新しく作られ続けます。1回の射精する精液の中には、2億〜5億個の精子があります。女性より緩やかですが、年齢と

ともに数が減ったり、運動機能が低下したりします。

●晩婚・晩産に伴うリスク

【不妊症】妊娠を望む女性と男性が、妊娠を試みて一定期間以上妊娠しない場合を、不妊症といいますが、その原因は、男性では「精子が少ない」「動きが鈍い」こと、女性では「卵子の老化」「排卵障害」などが考えられますが、原因が分からないことが多いです。不妊症の頻度は、20歳前半では6%ですが、40歳前半では64%と高くなります。

【流産】妊娠22週より前に妊娠が終わることをいいます。流産は妊娠12週までが多く、約80%を占めます。その原因は、胎児の染色体などの異常といわれています。流産は、全妊娠の約15%に起きていて、40歳代では約40%に上ります。

●妊娠の「医学的な適齢期」

卵子や精子は年齢とともに数が減り、質も低下していきます。また、不妊症や流産する頻度が40歳代になると増えます。そのため、20歳代遅くとも35歳ごろが妊娠の「医学的な適齢期」といわれています。



市民病院 Q & A



臨床工学技士は、どのような仕事をしているのですか？

主任臨床工学技士 河合紀幸



臨床工学技士は、Clinical Engineer (Clinical Engi-ner) と呼ばれ、医療機器の進歩に伴い、医学的、工学的な知識を兼ね備えた専門職が必要となったためにつくられた医療職で、厚生労働省認定の国家資格（1987年5月に制定）です。



主な仕事は、人工呼吸器などの生命維持管理装置の操作や保守点検を行うことですが、医師や看護師、他の医療スタッフと共に、呼吸・代謝・循環領域を中心とした治療や検査を行う臨床業務にも携わっています。このように、多種多様な業務を行うため、病院により業務範囲が異なっているのが現状です。

当院では、院内で使用されている約70種1800台の医療機器の点検や修理などの管理、呼吸療法・血液浄化などの治療業務、手術室での補助業務に5名が従事しています。

業務上、患者さんからはあまり目につかない職種ですが「縁の下の力持ち」となるよう、医師をはじめとしたチーム医療の一員として、安心安全を念頭に置き、機器の管理、治療や検査をサポートしていきます。

西尾市民病院臨床工学室 (☎ 56・3171)